

<p>1 情報を伝える立場として</p> <p>○客観的な事実やその時の出来事を伝える。 ○評価表を渡すときに教師側の意見を求められがちです。そういうときは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まだ4ヶ月たったばかりですから。」 ・「お母さん（お父さん）はどのようにお感じですか。」と逆に保護者の意見を求めるようにする。 	<p>これはNo Good</p> <p>○先生方から見た物の見方で話し、お願い事をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今のままでは学習について行けないのではないのでしょうか」「夏休みに家庭でよろしくお願いします。」 <p>これでは、逆に保護者を追い詰めてしまいます。</p>
<p>2 相談される立場として (カウンセリング的に)</p> <p>○あくまでも一緒に考えていくという立場で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そのことについては今後一緒に考えていきましょう。」 <p>○帰りは笑顔で帰っていただく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今日話してみてどうでしたか。」 <p>○自分の子どもの良さを自覚した保護者には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そうなんですね。」感じたままを話す。 <p>例「心なしかお母さんのお顔に笑顔が見られるように思えます。どうですか。」</p> <p>○自分の子どもの欠点ばかりを指摘する</p> <p>「そうなんですね」</p> <p>「いろいろ教えていただきありがとうございます。今後に生かしたいと思います。」</p> <p>基本応答は教えていただくという立場で「そうなんですね。」のバリエーション</p>	<p>これはNo Good</p> <p>(指示、親への指導をする)</p> <p>○どうすればよいか相談されたので、こちらから一方的に解決案を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目標を決めて毎日取り組ませるという方法はどうか。確認は必ず行ってください。」これは目標に向けて頑張らせるという点ではよいように見えるが、どの家庭でもそれがベストとは限らないまた、方法を押しているようにもとられがち ・「学校ではよくやっていますよ。家でも見てあげてください。」「学校でも対策をとっていきたいと思います。」これもよい応答に見えるが、何の根拠もなくそういわれても保護者の判断が間違っているととられることもある。
<p>○面接の終わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もう少しで面談時間の10分になりますが他にお話ししたいことはありますか。」 「ありません。」ここで面談を終える。最後に学校からお願いしたいこと例えば夏休みの過ごし方、キャリアパスポートのコメントの協力等のお願いを伝える。 <p>「実は・・・」基本的に面談を継続する。その際待っている保護者がいたら、面談が5分程延長することを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間になりましたのでこれで個人面接を終わります。」「その他になにかありますか。」面接時間が終わったからといって保護者に終わることを予告せずに急に終わると突き放されたように感じる。 <p>○他に話したいことがあるからと、保</p>

5分という枠組みは決めておく。
もし、それでも話したりない様子だったら後日時間を設けて話を聴くことを伝える。
最終で他に誰もいなくても、この枠組みは守る。

○座る位置は テーブルをはさむようにして対面でハの字で話を聴くようにする。しかし保護者の顔はしっかり見る。こうすることで保護者の様子や気持ちがわかることもあります。

保護者の意見を際限なく聞いていると長い時間終了できなくなる。

○対面で座ると常に視線を向けていなければならず、お互いに苦しい。中にはスマホをいじりながら面接に臨んでいる保護者もいるかもしれないと言うことも念頭に入れておく。

3 学校側の立場として

○判断が必要なときは、校長、教頭に相談して連絡することを伝える。

- ・すぐに決まりそうもない場合は時間がかかることを伝え、わかり次第知らせることを話しておく。

○面談の内容は前期の通知表と矛盾しない

- ・もし変わるようならばそれが説明できるよようにしておく。

これはNo Good

○自分で判断したり、事後承諾をする形をとると、万が一判断が間違っていた場合修正が難しい。学校全体に関わることは必ず管理職の判断を仰ぐ。

- ・「それは大丈夫だと思いますよ」

「そうなるように管理職に話しておきます。」方向性がわかるような応答をすると、肯定的に診断したととられることもある。

○個人面談と全く違うことを所見で書いたり、個人面談で賞賛したことが前期の通知表で評価されていないと不信感をもたれることもある。

合い言葉は

「説明は短く来たときよりも笑顔で帰っていただく。」です。